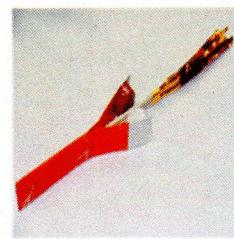


平成 24 年度 日本体操学会公募研究プロジェクト報告書



研究題目

- 以前創作したキッズハッピーエクササイズ「Bo も Be もどーも！」の親子ヴァージョンの作成。
- オリジナル手具として“鳴子”を参考にした手具の提案。

研究者氏名（所属）

報告者：藤巻裕昌（愛知淑徳大学）

報告者以外の研究者：瀬戸口 清文（大妻女子大学・日本遊育研究所）、大島 林子（名古屋芸術大学）、小嶋 信之、澤井 雅志（日本遊育研究所）、鈴木 和子、早川 ひろみ（三重大学教育学部附属幼稚園）、屋上 真導、藤田 正美、神谷 厚子（モダントレーニング研究会）、佐々木 弘子、川畑 輝子（有）Unicorn）、松下 典生（日本遊育研究所）

報告

1. 目的

「子どもの運動経験の不足が原因とされる気力・体力の低下をどのような運動で補い、支援していくのか？」を考えながら実践・検証していくのが本プロジェクトの趣旨であるが、今回は、キッズプロジェクトメンバーから、子どもたちのスナップ力向上のために鳴子を使用した活動を取り上げたいとの要望があり、オリジナルの鳴子を使用したリズム表現を考案・実践・検証する事とした。

鳴子を打つスナップ動作は、ボールを投げる動作においての“できばえ”に大きな影響を及ぼす。そこで、日本遊育研究所考案の「スナップスティック：ペットボトルのキャップと割り箸で作った手作り鳴子」に着目し、それを参考にプロジェクトのメンバーがそれぞれの経験に基づくアイデアを出し合いながら研究を進める事とした。

2. 概要

創作課題は、“振りに縛られない開放的でシンプルな作品”と定め、次の過程を踏まえ検証する。

- 各自が自由な動き、一定のリズム表現を考案する。
- 検討会にて動きを紹介し合い、検討会で創作した内容を各自で持ち帰り各実践の場にて検証し、工夫、改善点を探る。
- 実践の場からの報告を集約し、提案した内容の妥当性を検証し学会大会にて報告する。

リズム表現の創作

使用曲名 “天までとどけわらしうた” J=120 3:37

作詞 瀬戸口清文 作曲 亀山耕一郎

◎既存の振り付け（5歳児向けマスゲーム）を以下のようにアレンジ

* 小学校低学年向けのスナップスティックを活用した勇壮なマスゲーム

* 幼児全般～大人までふれあいながら動き楽しめる座ったままできるスナップスティックダンス

以上の提案をベースに、全キッズメンバーで創作。

3. 結果（または成果）

1) スナップスティックの効果について

想定していた通り、子ども達はあつという間にペット

ボトルのキャップのカチカチ音を楽しんでいた。その中で、上手く鳴らせる子とそうでない子の差はスナップの使い方である事も、想定していた通り明らかだった。自らの動かし方で音量やスピードが変化する事に気付いた子ども達は、夢中になってその事を楽しみながらスナップ力を向上させていく事が検証できた。

2) スナップスティックの強度について

小学生以上が繰り返し使用すると劣化が早まる事が判明した。本来の躍動感ある音の響きが弱くなったり、スナップ動作をする際に指先にペットボトルのキャップが当たる等、部分的に改善する必要性を感じた。

そこで、改善のポイントとして鳴子の拍子木部分の強度を上げる為、牛乳パックやペットボトルの素材を活用することにより、さらに鳴子の特徴である躍動感あふれるオリジナルの手具：スナップスティックが完成した。

（他にも中心部の割り箸を一膳から三膳にし、より鳴子に近いスティックや、しゃもじを使用したスティックも完成）

まとめ

上記の結果・考察 1) で示したように、教材の妥当性は検証できた。何れにせよ“音が出る”という聴覚的刺激は、動き楽しむというリズム表現活動のモチベーションを向上させることが検証できた事も、本研究の成果の一つでもある。又、手作りのスナップスティックを打ち鳴らす喜びがリズム表現活動への取り組みにも大いに影響する事も意義深い。キッズプロジェクトの基本理念は“心も体も丈夫な子を育む”であるが、特に「心」の育ち（幸福感・充実感・達成感等）こそが最大の課題と考え、今後もメンバー一同でその事を探求して行きたい。

課題について

1. 親子ヴァージョンについて

実践より、検討会での討論から一部を報告とする。詳細は、「Bo も Be もど～も！」親子ヴァージョンの具体的な提案をビデオレター（3つ）より検討した。

各メンバーからのコメントを基に、教材の有効性を検討した。以上のことより、検討会での議論の一部を掲載し、報告とする。

2. スナップスティックについて

小学校低学年向けの演技構成は、短時間で無理なく、楽しく習得できる内容であった。今後は、幼児～大人まで、各年齢層での運動あそびを考案し、スナップスティックがボールを投げるスナップ強化やリズム表現活動をより有意義に導ける手具か否かを実践、検証していく。

以上、活動報告とする。子どもたちが、互いにからだを動かし楽しみながら運動能力、そして友だち同士で活動することで感じる喜びを引き出す教材開発、誘導方法について今後も検証していく。

今後は現場での実践から検討した課題を再検討し、「子どもたちが幸せになるために」を合言葉に、子ども、そしてそこに関わるすべての人が、充実した活動が取り組める提案をキッズ分科会のメンバーを中心に発信していくと考えている。